

**札幌市こども人形劇場こぐま座
令和7年度管理業務報告書**

項 目	実 施 状 況		評価・反省											
1. 管理の基準														
(1)開館時間及び休館日	<table><tr><td>1</td><td>開館時間</td><td>午前8時45分から午後10時まで。ただし、日曜日は午前8時45分から午後5時まで</td></tr><tr><td>2</td><td>休 館 日</td><td>(1)月曜日(当該月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、当該月曜日後最初に到来する同法に規定する休日以外の日) (2)12月29日から翌年1月3日まで</td></tr><tr><td>3</td><td>開館日数</td><td>303日</td></tr><tr><td>4</td><td>休館日数</td><td>62日</td></tr></table>	1	開館時間	午前8時45分から午後10時まで。ただし、日曜日は午前8時45分から午後5時まで	2	休 館 日	(1)月曜日(当該月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、当該月曜日後最初に到来する同法に規定する休日以外の日) (2)12月29日から翌年1月3日まで	3	開館日数	303日	4	休館日数	62日	
1	開館時間	午前8時45分から午後10時まで。ただし、日曜日は午前8時45分から午後5時まで												
2	休 館 日	(1)月曜日(当該月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、当該月曜日後最初に到来する同法に規定する休日以外の日) (2)12月29日から翌年1月3日まで												
3	開館日数	303日												
4	休館日数	62日												
(2)施設使用の承認について	・札幌市こども劇場条例及び札幌市こども劇場条例施行規則に基づき、実施した。													
(3)利用の制限に関する事項	・該当事例なし。													
(4)札幌市個人情報保護条例の適用について	・個人情報の取り扱いについては、札幌市個人情報保護条例に基づき適正に処理を行った。また、個人情報の開示の要望はなし。													
(5)札幌市情報公開条例の適用について	・該当事例なし。													
(6)札幌市行政手続条例の適用について	・札幌市行政手続条例に基づき適正に処理を行った。													
(7)札幌市オンブズマン条例の適用について	・該当事例なし。													
(8)札幌市暴力団の排除の推進に関する条例の適用について	・札幌市暴力団の排除の推進に関する条例に基づき、適正に処理を行った。 該当照会実績なし。 (使用承認申請書での確認、協定に関連する契約業者の確認)													
(9)障害者差別解消法の適用について	・障がい者差別解消法を踏まえた、札幌市の対応方針及び接遇要領に基づき、合理的配慮等の利用者対応を行った。													
2. 統括管理業務														
(1)管理運営業務の基本方針の策定	『豊かな子ども文化に彩られた未来創造のまち・さっぽろ』 札幌市こども人形劇場こぐま座は、「人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他の活動に資すること」を目的に設置された施設である。 全国的にも珍しい子どものための専門劇場であり、子どもたちが人形劇等に親しみ、笑顔あふれ、夢を持って育つことを願い運営を行うことを基本方針として策定した。		・施設設置の理念に基づき、基本方針を策定した。市民にとっての劇場のあり方と、地域における劇場の役割を具体化し実践した。また、当方針を達成するため全職員が意識を1つにして、親しみやすい劇場作りに努めた。											
(2)平等利用の確保に向けた考え方と取組	人形劇等の子どもたちのために舞台表現活動を行う団体に対しては幅広く受け入れ、優れた作品を上演できるよう支援を行った。劇場職員は、観客である子どもとその家族を温かく迎え入れ、親しみやすい雰囲気を作ると共に、上演する団体の支援者となることに努めた。													
(3)地球温暖化防止対策及び環境配慮の推進	環境行動マニュアルに基づき、環境に意識し業務を推進した。観客に無理のない範囲で冷暖房の節約を行い、電気量の節電など環境に配慮した取組を行った。		・環境行動マニュアルに基づき、各エネルギー(電気、水道等)の節約に努め、施設運営を行った。											

(4)管理運営組織の確立	①責任者の配置、組織整備 ・統括責任者1名配置。 ・事務分掌、緊急連絡体制等を定めた。 ②従事者の確保・配置 ・職員の配置体制 <table border="1" data-bbox="427 208 1070 367"> <tr> <td>統括責任者</td><td>1名</td><td>統括責任者(やまびこ座・こぐま座兼務)</td></tr> <tr> <td>職務代理者</td><td>1名</td><td>こぐま座の管理運営責任者(中島児童会館兼務)</td></tr> <tr> <td>事業指導担当者</td><td>1名</td><td></td></tr> <tr> <td>舞台技術担当者</td><td>1名</td><td></td></tr> <tr> <td>計</td><td>4名</td><td></td></tr> </table> (1)派遣研修(劇場運営関係) 全国人形劇関係機関及び児童文化関係施設との連携を密にすることで、職員の専門知識向上に努めた。 ・人形浄瑠璃ワークショップ対応 職員1名(福島県) 5月31日(土)～6月1日(日)、12月26日(金)～27日(土)、 1月24日(土)～26日(月)、2月28日(土)～3月1日(日)、 3月20日(金・祝)～23日(月) ・砂川人形劇創作体験プログラム 6月11日(水)～3月15日(日) - 講師派遣、講師補助 職員1名 ・いいだ人形劇フェスタ2025 8月4日(月)～11日(月) 職員5名 ・こども人形劇フェスティバル in sunagawa 3月20日(金) 職員4名 (2)こどもの劇場・こども人形劇場職員研修 ・こども劇場課職員研修 5月13日(火) 職員10名 ・ハラスメント研修 8月28日(木) 職員10名 ・人形劇ゼミナール(人形劇指導研修)※児童会館部門と共同 4月24日(木)～7月20日(日) 職員2名 ・こどものまなび塾 7月10日(木)～10月30日 職員1名 ・こども文化セミナー 2月11日(水) 職員6名 ・刈払機取扱作業安全衛生教育 6月4日(水) 職員2名 (3)公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修 ・コンプライアンス研修 ・職位階層別研修 ・目標管理制度 ・個人情報保護研修 ・評価者研修	統括責任者	1名	統括責任者(やまびこ座・こぐま座兼務)	職務代理者	1名	こぐま座の管理運営責任者(中島児童会館兼務)	事業指導担当者	1名		舞台技術担当者	1名		計	4名		・管理業務を適切に行うため、人形劇、舞台、照明、音響に係る専門職員をはじめ、管理に係る職員を適正に配置し、組織を確立した運営を行った。 ・職員として専門性を高めるため、児童文化関連施設や各種事業・研修会に職員を派遣し、職員一人ひとりが創造者として利用者と関わるべく多様な場で研鑽に努めた。施設利用者のニーズに応える市民サービスの向上につながったといえる。 ・職員としての意識向上と人材育成の両面から年間方針・重点目標を整理し、全職員で共有する機会を設けたことで、組織としての方向性の理解促進につながった。あわせて、各種取り組みや研修の場を通して文化芸術に関する学びを深めることができ、職員一人ひとりの意識向上や資質向上に一定の成果が見られた。今後も学びを継続し、持続可能な施設運営につなげていく必要がある。 ・職員の学び合いの場として、想像力や協力する力を育む人形劇創作(人形劇ゼミナール研修)や、子どもたちの体験・表現活動への理解を深めるための研修に参加し、職員育成の場として非常に有効な機会とすることができた。 ・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修計画に基づき、各職員の資質向上を目指した研修を実施した。
統括責任者	1名	統括責任者(やまびこ座・こぐま座兼務)															
職務代理者	1名	こぐま座の管理運営責任者(中島児童会館兼務)															
事業指導担当者	1名																
舞台技術担当者	1名																
計	4名																
(5)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	・職員の勤務時間を適正に管理するため「勤怠管理システム」を導入し、法令遵守に結び付けた。 ・職員の健康管理に係る取組みとして、産業医を導入した。 ・法令に基づき、時間外労働または休日労働させる場合の労使協定(36協定)を労働者と締結し、労働基準監督署に届出を行った。 ・職員の勤務形態、家族状況等に応じて年金保険、医療保険に加入した。また、必要に応じて適正に届出等を行った。 ・常勤職員のほか1年以上の有期雇用者に対して、1年に1回定期健康診断を実施したほか、再検査の費用負担を行った。 ・正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員から希望者を募り、内部登用試験を実施した。 ・労災保険加入と、条件を満たす労働者を雇用保険に加入した。 ・法人として全ての常勤職員を対象にストレスチェックを実施した。	・労働関係法令に関する理解を深めると共に、雇用環境の維持向上に向けた取組を行うことができた。															
(6)管理水準の維持向上に向けた取組	・財団ネットワークシステムを活用した情報共有や都度ごとの担当者会議、定例的な職員会議を実施し、管理水準の向上に努めた。 ・日常業務のブラッシュアップを行い、業務効率の向上を図った。また、施設点検による安全面の確認を随時行った。 ・職員によるプロジェクトを組織し、職員一人ひとりが業務の質を上げ、先見的な方向性を打ち出せる人材の育成を目指した。	・財団内の他部門との情報共有や協働実施を行い、より質の高い事業展開に結びつけることができた。															

(7)第三者に対する委託の方針	第三者に対する委託業務の実施状況 ・下記の業務について、第三者に対する業務委託を行い、当該契約に基づき、必要な指導、指示及び検査を行った。 <table><tr><th colspan="2">業 務 名</th><th>契約業者名</th><th>実施月</th><th>契約方法</th></tr><tr><td>1</td><td>舞台設備(吊物・照明・音響)保守点検業務</td><td>株式会社池下電設</td><td>2月</td><td>随意契約(特命)</td></tr></table>	業 務 名		契約業者名	実施月	契約方法	1	舞台設備(吊物・照明・音響)保守点検業務	株式会社池下電設	2月	随意契約(特命)	・施設の良好な維持管理のため、年1回の舞台設備保守点検業務を実施した。								
業 務 名		契約業者名	実施月	契約方法																
1	舞台設備(吊物・照明・音響)保守点検業務	株式会社池下電設	2月	随意契約(特命)																
(8)札幌市及び関係機関との連絡調整等	<table><tr><th>開催回</th><th>開催日</th><th>協議・報告内容</th></tr><tr><td>運営協議会(第1回)</td><td>10月24日</td><td> ・令和7年度事業報告(上半期) ・セルフモニタリング報告(上半期) ・事業や運営についての意見交換 </td></tr><tr><td>運営協議会(第2回)</td><td>3月5日</td><td> ・令和7年度事業報告(下半期) ・セルフモニタリング報告(下半期) ・事業や運営についての意見交換 </td></tr><tr><td>業務・財務検査</td><td>3月6日</td><td> ・業務検査 ・財務検査 </td></tr><tr><td>利用者懇談会</td><td>3月12日</td><td> ・こぐま座・中島連携事業報告 ・こぐま座事業報告 ・劇団育成支援事業について ・各劇団の公演活動状況等 ・広報活動について意見交換 </td></tr><tr><td colspan="3">＜協議会メンバー＞ 人形劇団代表、児童劇団代表、やまびこ座読み語りの会代表、元北星学園大学文学部教授、やまびこ座地域の青少年健全育成委員会会長、札幌市子ども未来局子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、札幌市こども人形劇場館長</td></tr></table>	開催回	開催日	協議・報告内容	運営協議会(第1回)	10月24日	・令和7年度事業報告(上半期) ・セルフモニタリング報告(上半期) ・事業や運営についての意見交換	運営協議会(第2回)	3月5日	・令和7年度事業報告(下半期) ・セルフモニタリング報告(下半期) ・事業や運営についての意見交換	業務・財務検査	3月6日	・業務検査 ・財務検査	利用者懇談会	3月12日	・こぐま座・中島連携事業報告 ・こぐま座事業報告 ・劇団育成支援事業について ・各劇団の公演活動状況等 ・広報活動について意見交換	＜協議会メンバー＞ 人形劇団代表、児童劇団代表、やまびこ座読み語りの会代表、元北星学園大学文学部教授、やまびこ座地域の青少年健全育成委員会会長、札幌市子ども未来局子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、札幌市こども人形劇場館長			・運営協議会を設置し、委員へ事業実施状況等の報告を行い、施設運営についての意見交換を行った。 ・札幌市による業務・財務検査を受け、業務改善に努めた。 ・利用者懇談会では、令和7年度の事業報告を行い、劇団活動の活性化や公演事業の集客等について意見交換を通して次年度の劇場運営に向けての参考とした。
開催回	開催日	協議・報告内容																		
運営協議会(第1回)	10月24日	・令和7年度事業報告(上半期) ・セルフモニタリング報告(上半期) ・事業や運営についての意見交換																		
運営協議会(第2回)	3月5日	・令和7年度事業報告(下半期) ・セルフモニタリング報告(下半期) ・事業や運営についての意見交換																		
業務・財務検査	3月6日	・業務検査 ・財務検査																		
利用者懇談会	3月12日	・こぐま座・中島連携事業報告 ・こぐま座事業報告 ・劇団育成支援事業について ・各劇団の公演活動状況等 ・広報活動について意見交換																		
＜協議会メンバー＞ 人形劇団代表、児童劇団代表、やまびこ座読み語りの会代表、元北星学園大学文学部教授、やまびこ座地域の青少年健全育成委員会会長、札幌市子ども未来局子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、札幌市こども人形劇場館長																				
(9)財務(資金管理、現金の適正管理)	・資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施した。 ・金銭等の取扱いについては、当財団が定める処務規定及び財務規程、金銭等取扱要領に基づき、適正に経理事務を行った。 ・当財団の内部監査、公認会計士による外部監査を導入し、会計処理などが適切に行われているかを検査した。	・現金の取扱いについて、複数職員による確認を行い、金銭事故防止に努めた。																		
(10)苦情対応	・「迅速・適切・真摯・平等」で「利用者の立場に立つ」対応を心がけた。 ・意見箱を設置し、日常的に市民の声を聞くことができる環境を整えた。 ・ご意見・ご要望については職員会議にかけ、迅速に対応した。 (令和7年度については、意見箱への要望・苦情は無し。)	・意見箱へご意見や苦情を受けた場合、職員間で内容を共有して原因分析を即座に行い、苦情の低減に努めるよう体制を整えて備えた。 ・直接いただいたご意見については、職員間で内容を共有して原因の究明を即座に行い、市民に対して丁寧な説明を行った。																		
(11)記録・モニタリング・報告・評価	・業務実施に関する記録、帳簿等の整備、記録保管に努めている。(業務日誌、設備点検記録、事業記録、経理書類、現金出納簿など) ・劇団及び観客、事業参加者に対し、アンケート調査を実施し、常に市民からの声に耳を傾けている。 ※アンケート調査結果の詳細は「アンケートのまとめ」参照	・セルフモニタリングにより自己評価を行い、今後の事業運営につなげた。 ・アンケートで「総合満足度」「接遇」に高い評価をいただいたことは成果だといえる。今後も市民サービスの向上に努める。																		

3. 施設、設備の維持に関する管理																																			
(1)維持管理業務	・利用者等の安全確保を第一に優先し、市民サービスの向上を図った。また維持管理計画の下、日常点検を行い対応を図った。 ① 清掃業務 <table><tr><td></td><td>区分</td><td>実施状況</td><td>実施日</td></tr><tr><td>1</td><td>定期清掃</td><td>中島児童会館と複合施設であるため、中島児童会館の第三者委託業務により実施した。</td><td>11月12日</td></tr><tr><td>2</td><td>日常清掃</td><td>職員で対応した。また、公演時には劇団の協力を得て実施した。</td><td>通 年</td></tr></table> ② 警備業務 <table><tr><td></td><td>実施状況</td><td>実施日</td></tr><tr><td>1</td><td>中島児童会館と複合施設であるため、中島児童会館の第三者委託業務により実施した。 契約業者：北陽警備保障㈱</td><td>通 年</td></tr></table> ③ 修繕工事の実施状況 <table><tr><td></td><td>修 繕 内 容</td><td>修繕日</td></tr><tr><td>1</td><td>こぐま座ラベリアマイク修理</td><td>11月26日</td></tr><tr><td>2</td><td>こぐま座舞台照明操作卓用UPS用バッテリー交換</td><td>11月21日</td></tr><tr><td>3</td><td>こぐま座CDレコーダ修理</td><td>3月10日</td></tr><tr><td>4</td><td>こぐま座ラベリアマイク送信機修理</td><td>3月24日</td></tr></table> ④ 駐車場管理 ・劇団等の施設利用者に対して車両進入許可証を発行し、公園内での事故等に十分注意し、関係者以外の進入を防ぐよう努めた。 ⑤ 外構緑地管理、除雪作業 ・敷地内の植木、除雪については、美観の保持、安全面、近隣住民への配慮等の点から、適切な維持管理を行った。		区分	実施状況	実施日	1	定期清掃	中島児童会館と複合施設であるため、中島児童会館の第三者委託業務により実施した。	11月12日	2	日常清掃	職員で対応した。また、公演時には劇団の協力を得て実施した。	通 年		実施状況	実施日	1	中島児童会館と複合施設であるため、中島児童会館の第三者委託業務により実施した。 契約業者：北陽警備保障㈱	通 年		修 繕 内 容	修繕日	1	こぐま座ラベリアマイク修理	11月26日	2	こぐま座舞台照明操作卓用UPS用バッテリー交換	11月21日	3	こぐま座CDレコーダ修理	3月10日	4	こぐま座ラベリアマイク送信機修理	3月24日	・日常的に施設及び設備について機能全般の良好な維持に努め、市民が利用しやすい施設運営を行った。 ・日常的に施設内外の清掃に努めていることから、利用者から「施設が清潔」「子どもと安心して利用できる」と好評をいただいた。 ・市民の利用に支障がないよう、施設内の設備や使用機器類の日常点検や清掃等を行った。 ・駐車場を利用する劇団利用者に対し、安全確認および注意を促すことで、公園内の安全確保に努めた。 ・中島児童会館及び中島公園管理事務所と連携し、日頃より適切な維持管理を行った。
	区分	実施状況	実施日																																
1	定期清掃	中島児童会館と複合施設であるため、中島児童会館の第三者委託業務により実施した。	11月12日																																
2	日常清掃	職員で対応した。また、公演時には劇団の協力を得て実施した。	通 年																																
	実施状況	実施日																																	
1	中島児童会館と複合施設であるため、中島児童会館の第三者委託業務により実施した。 契約業者：北陽警備保障㈱	通 年																																	
	修 繕 内 容	修繕日																																	
1	こぐま座ラベリアマイク修理	11月26日																																	
2	こぐま座舞台照明操作卓用UPS用バッテリー交換	11月21日																																	
3	こぐま座CDレコーダ修理	3月10日																																	
4	こぐま座ラベリアマイク送信機修理	3月24日																																	
(2)防災業務	① 防災計画と組織 ・防災計画を定め、自衛消防組織を設置し、有事の際の迅速な対応に備えた。 ② 防災訓練の実施 ・中島児童会館と合同の防災計画・緊急連絡体制を定めた。 避難訓練実施 9月19日(参加人数37名) 3月25日(参加人数38名) ③ 状況に応じた情報収集及び事故発生時の対応 ・関係機関からの情報収集と館内利用者への正しい情報提供に備え、事故対応に努めている。 ・事故防止に備えた日常的な訓練等による危機管理体制を整え、賠償保険にも加入し不測の事態に備えた。	・災害や利用者の傷病に対する対応については、常日頃より気を配り、突発的な事態にも対応できるよう事前の準備を心がけた。 ・舞台公演中の対応についてシートに基づいて職員で確認し、公演を行う劇団とも有事の場合の対応について確認した。																																	
4. 事業の計画及び実施に関する業務																																			
(1)児童文化の普及及び子どもの健全育成のための公演・展示会・講座等の開催に関する業務	・子どものための専門劇場として、未来を担う子どもたちが文化芸術に触れることで、情操豊かに育つことに加え、それを支える市民劇団を育成する中で醸成される地域コミュニティ創造を目指す事業を展開した。 ・障がいの有無に関係なく共に創りあげる「パペットアートヴィレッジ」や「手話通訳付き人形劇公演」を定期的に実施することができた。これらの取り組みを継続させたことにより「インクルーシブ文化祭」実施に繋がり、関係団体・個人との協働体制の強化、何より障がい当事者の観劇、参加機会を創出し、新たな劇場の価値を見出すことができた。 ・こぐま座、やまびこ座の両劇場の根幹である劇団育成や人材発掘について、子どもから大人まで幅広い世代に対し、年代やニーズに応じた取り組みを進めた。市民劇団が文化活動を継続できる環境づくりや、それを支える劇場職員の専門性向上、人形劇に携わる市民の裾野拡大を図ることで、今後の文化芸術を担う人材を育成し、文化芸術の担い手や理解者を増やしていくことが、子ども文化を持続的に市民へ提供していくことへつながっている。 ・中島児童会館との一体運営で協働事業を実施することにより、子どもたちの健全育成を強みとする実践を重ね、市民に対して広く子ども文化の拠点としての存在価値を示すことができた。今後も積極的かつ確実に子ども文化を市民に提供する努力をしていく。	・劇場が市民にとって身近であり、日常的に利用できる環境、さまざまな体験の場となっている。 ・文化芸術活動を通して誰もが創造者として参加できる社会の実現に寄与している。こうした取り組みを市民に広く発信することで、理解者や支援者の拡大と持続可能な事業展開につながっている。 ・人材育成の取り組みとして誰もが参加しやすい環境整備を進めることで、より多様な市民が文化芸術に触れられる場づくりができています。																																	

【公演事業】

・令和8年度迎えるこぐま座50周年を記念して様々なプレ企画を実施した。2月に実施したゆきあかりフェスティバルでは、50周年にちなんだクイズラリー等を行い、訪れた参加者たちにPRすることができた。
・定期的に「舞台手話通訳付き人形劇公演」を実施できたことで、普段劇場に來たことのなかった市民が足を運び、観劇を楽しむことに繋がった。10月に開催したインクルーシブ文化祭「まぜこぜフェスティバル」では、こぐま座での上演を全て舞台手話通訳付きで行い、來場した多くの観客に観ていただくことができた。開演前や劇の幕間に劇中で使われる手話のレクチャータイムを設けたことで、観劇した子どもたちの手話に対する興味関心を高めることができた。

【講座事業】

・市民劇団の育成が、人形劇等の持続的な子ども文化の提供につながっている。令和7年度も各世代に合わせた人形劇等の育成事業を実施し、新たに7劇団が誕生した。各種講座、人形劇ゼミナール、人形劇スキルアップ講座の開催によって、人形劇創作の知識を深めるとともにグループワークを学ぶ機会となった。継続して講座を受講する劇団もあり、講座終了後も劇場の主催事業や自主公演を目標に活動している。
・「こぐま座人形劇講座」では、初心者と経験者を対象に受講生を募集し開講した。経験者2劇団が参加し、初心者2劇団が誕生した。4劇団が発表会を目指して人形劇を製作し、上演した。受講生同士が交流し、お互いに刺激を受け合いながら製作を進め、劇団同士の交流の場にもなった。

【子どもの舞台表現活動の推進】

・人形劇の裾野を拡げていくための人材育成事業の一つとして、小学生から高校生まで幅広い年代に向け、「こぐま座こども人形劇団」「バベットユーススクール」「バベットカレッジ」といった文化体験機会を創出した。
・札幌市内児童会館と連携した人形劇クラブの取り組みは11年目となる。令和7年度は札幌市内8館、千歳市1館の児童会館で人形劇クラブの活動が行われた。取り組んだ当初から活動を継続しているクラブ、新たに誕生したクラブともにそれぞれが個性豊かな作品を創造しており、作品の質も年々向上している。また、児童会館の人形劇クラブを卒業し、中学生となった子どもたちが劇場の人材育成事業である「バベットユーススクール」に参加し、新たな人形劇団を結成する流れもできつつあり、着実に裾野の拡大へとつながっている。劇場スタッフとともにアマチュア人形劇団の協力を得ることで脚本や演出の面で共に悩みながら指導に当たっていることの効果は大きい。劇団側にとっても子どもたちと一緒に作品創造に取り組むことで子どもたちの可能性を肌で感じ新たなやりがいや指導力を積む機会につながっている。
・国際人形劇連盟 (UNIMA) が定める『世界人形劇の日』に合わせて『世界人形劇の日 こども人形劇フェスティバル』を実施し、児童会館人形劇クラブを中心とするこども人形劇団11団体による人形劇の連続公演と交流会を行った。子どもたちが協力して一生懸命に1つの舞台をつくる姿は観客に感動を与え、やまびこ座・こぐま座が関わってきた子どもたちの成長が表れた舞台となった。

【ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)の機能を有した文化芸術事業の拡充】

・ソーシャルインクルージョン事業で培った知識や技法、人材を活かし、より広く市民に伝える機会として「インクルーシブ文化祭」を実施した。多様性が重視される現代において、インクルーシブな取り組みは欠かすことのできないものであり、今回の事業はその考え方を社会へ広く発信する機会となった。実施に当たっては、これまでの事業を通じてつながりのあった人材を活かし、実行委員会形式で取り組んだ。また、それぞれの持ち味を発揮することで、多くの人が参加しやすく、楽しめる場を作ることができた。さらにこれまで実施してきたインクルーシブ公演やバベットアートウィレッジに参加していた子どもたちや保護者との関係も深めることができた。

【地域との共生および関係機関との連携】

・中島児童会館と合同で開館記念事業「かもくま祭×あそびのフェスティバル」を実施した。地域の協力者や企業等多くの協力者の力を借り、実行委員会形式で実施することができた。また、近隣企業として継続してご協力いただいているパークホテルに加えて、セイコーマート南9条店を協賛につなげることができ、賑わいのある催しとなったことは大きな成果だった。

・こぐま座と中島児童会館の歴史的価値とともに、令和8年度のこぐま座50周年をPRできたことで、新たな層の開拓につながった。

・今後劇場に期待することとして「手話通訳付きの劇を増やしてほしい」との声もあり、障がいの有無にかかわらず多くの市民が観劇を楽しむ機会を増やすという本事業のねらいを好意的に受け止めてもらうことができたと言える。

・「やまびこ座」「こぐま座」が文化発信拠点と同時に人材育成拠点として認知されていることは、これまでの実績と成果である。

・これまで培ってきた人形劇等における人材育成のノウハウを生かし、受講生同士の交流を深めることによる持続可能な支援を進めていく。

・劇場が取り組んできた人形劇の裾野拡大、人材育成の成果を発揮することができた。人形劇に携わる市民の裾野を拡げることで、これまで育成してきた人材、アーティストによる子どもたちへの波及効果が期待でき、途切れることなく次世代の創造者、指導者を育てていくことが可能になる。

多様なアイデアが生まれるとともに、新たな人材との出会いにもつながり、今後の事業展開においても関係性を築くことができた。今後も誰もが楽しめる文化のあり方を意識しながら継続して取り組んでいきたい。

・今後も地域の特性を生かして様々な外部団体や関係機関と協働で事業を展開していく。また、地域の文化拠点として、劇場の機能やノウハウを生かした事業を行い、地域の子どもの健全育成に役立てていく。

【社会貢献事業の取組】
・東日本大震災以降、さまざまな事業を通してつながってきた協力団体と連携し、北海道内外で文化芸術活動を支援する「広域文化支援ネットワーク形成事業」を前年度に引き続き実施した。令和7年度においては、前年度のつながりや連携をさらに強化し、広域的なネットワークを形成することで、社会のニーズに応じた様々な事業を企画・実施した。

5月
「森のこどもらんど」/パペットカー派遣
連携団体：NPO法人子どもと文化の広場 ふれいおん・とかち
内容遊びを通じた交流事業の企画・実施人形劇等に関する相談等

6月
札幌人形浄瑠璃ありし座遠軽公演スタッフ派遣
連携団体：NPO法人北海道人形劇協会
人形劇等に関する相談・講師派遣業務

5月～3月
高倉人形浄瑠璃座ワークショップ
連携団体：郡山市日和田公民館（高倉人形浄瑠璃座）
内容：舞台体験プログラムの企画・実施、講師派遣（人形浄瑠璃）

【展示室の活用およびその他】
・展示室の活用により、絵本原画展や紙芝居展等の特別展示、子どもたちの作品展示、ボランティアによる読み聞かせ事業「おはなしの会」等を実施した。市民や観光客にも、気軽に足を運んでもらえる企画を行ったことで、施設の新規利用者獲得やイメージアップをする機会となった。
※企画展示年6回、ワークショップ1回、おはなしの会年21回実施した。
やまびこ座と共同で人形劇観劇スタンプラリーを実施した。
（カード発行枚数：6,473枚 ※やまびこ座3,192枚、こぐま座3,281枚）

【中島児童会館との一体運営の取組】
・札幌の子ども文化の発信基地として、人材育成や文化体験機会を拡充するための発展的な事業展開（「まなび塾」「こども文化セミナー」「企画展」「子ども向けワークショップ」等）を行った。また、札幌の子ども文化を考える情報誌「MA・SO・BO通信（年6回）」の発行を行った。
※事業実績 別紙業務報告書参照

ア 利用状況実績

観劇者数	無料	1,619 人
	招待	345 人
	有料	6,411 人
	合計（a）	8,375 人
出演者数（含むリハーサル）（b）		1,784 人
研修・見学者等の数（c）		29,071 人
総数（a+b+c）		39,230 人
上演回数		202 回
上演日数		126 日
仕込み・リハーサル・研修日数		221 日
上演1回あたりの観客数		41.5 人

利用人数（前年度 37,751人・前年比104%）

事業実績 別紙業務報告書参照

・文化芸術活動を通して社会の課題にアプローチを行っていくことは、劇場の一つの使命でもあり、様々な人たちが文化芸術を享受し参加できる機会を提供していくことが重要である。やまびこ座・こぐま座の取り組みとして、文化の街・札幌を広くPRできる発信力につながった。

・子どもたちの健やかな成長を文化的視点から守り支援していくため、新たな協力団体や関係機関とつながり、ネットワークを上げていくことで個々の力だけでは成し得ない課題解決や新たな事業展開につなげる。

・季節ごとの企画展示の実施、MA・SO・BO通信の発行等、新たな利用者獲得のために市民を惹きつけ、足を運んでいただけのような企画を行った。

・利用率については前年度とほぼ同程度で推移しているが、観劇者数については前年度より16%程度減少傾向にある。少子化の影響も考えられるが、市民が再び劇場へ足を運びたくなるような魅力的な公演や事業を実施し観劇の機運を高めていく。

・来年度迎えるこぐま座50周年にあたり、新聞やテレビ等のメディアに出る機会の増加が想定されることから、劇場の認知度向上につなげる機会とし広報活動を積極的に行い、市民・劇団共に利用のしやすい劇場を目指す。

(2)子どもに関わる舞台活動の拡充に関する情報収集・調査研究・立案及び提供に関する業務	・関係機関の情報収集を行い、資料の整理を随時行った。市民からの要望に応じ、情報提供できる体制を整えた。 ・札幌市内及び北海道内における児童文化関係団体や全国の公立劇場、児童文化活動の調査に協力し、調査結果を共有して分析を行った。広い視野に立った子どものための舞台活動の研究に努めた。	・調査に協力する中で、やまびこ座やこぐま座で人形劇創作活動を行っている劇団や子どもたちの活躍を、さまざまな形で発信することができ、両劇場のPRIにもつながった。
(3)劇団育成支援に関する業務	・劇団支援策として「札幌市こども人形劇場こぐま座支援事業」を実施した。(各劇団の中島児童会館占用利用について、使用料の一部を負担する) ※申請件数33件 ・運営協議会、利用者説明会、利用者アンケートを実施した。利用者(劇団)側からの様々な要望を聞くことができた。 ・市民ボランティアの募集育成 ①指人形ボランティア(10名) ②MA・SO・BOおはなしの会(9名) ・各劇団、ボランティアが劇場を通して交流する機会を提供した。 ①GWイベント(5月) ②よみかたりフェスティバル(6月) ③開館記念祭「かもくま祭」(7月) ④あおぞらピクニックアンター(9月) ⑤秋のなかじまわくわくランド(10月) ⑥札幌人形劇祭(11月)※やまびこ座と共同で実施 ⑦利用者懇談会(3月)	・劇団の育成のため、今後も継続して支援活動に取り組んでいく。 ・運営協議会、利用者懇談会、利用者アンケート等を実施し、劇団側に十分な説明や意見交換を行うことで、施設の利用と協力体制を強化することができた。 ・市民ボランティアとの協働事業は、職員がボランティア間の橋渡し役となり、明るくやりがいいのある事業となるよう努めた。
(4)人形劇等に関する指導、相談業務	・人形劇の制作のための技術的指導ができる職員を配置し、日頃から人形劇について、指導、助言ができる体制作りに努めた。公演時や稽古時等において、適宜アドバイスをし、劇団側と協働してより良い作品づくりを行った。また、初心者・経験者対象のこぐま座人形劇講座を実施し、市民の誰もが芸術文化に携われる機会を創出し、文化の担い手として育成する環境を整えた。	・利用者(劇団)にとって丁寧にかかわることが制作活動の支援となっている。今後も劇団に対し、上演機会の設定や作品創造に関するアドバイス、サポートをしていくために指導者・舞台スタッフの育成に取り組む。
(5)その他、設置目的達成に資する業務	特別事業の実施実績 [特別事業の実施] ・いいだ人形劇フェスタ2025派遣交流事業(8月4日～11日) やまびこ座・こぐま座の人材育成事業に参加する小学生から社会人までの人形劇・人形浄瑠璃のメンバーに加え、パペットアートヴィレッジに参加する障がいのある子どもたちも出演した。関係団体の協力や、これまで築いてきた子どもたちとの関係性、保護者の理解、さらに出演者の特性を生かした柔軟な演出等により、作品の完成度が高まり、観劇に訪れた市民からも高い評価を得ることができた。また、共に舞台を創り上げたことによる達成感や充実感が参加者およびスタッフ双方に感じられ、創作活動の意義を再確認する機会となった。さらに、「いいだ人形劇フェスタ」への参加を通じて全国の観客に公演を届けることで、やまびこ座・こぐま座の取組を広く発信し、認知の拡大につながった。 ・こぐま座プレ50th中島児童会館・こぐま座Presentsゆきあかりフェスティバル2026(2月7日～8日) 中島公園の立地や広場を生かし、雪像づくり体験やスノーキャンドルづくりなどの雪を使った遊びを実施した。 [人形劇団派遣交流事業] ・砂川人形劇フェスティバル派遣(3月15日) [その他] 動画配信 YouTubeで事業の様子を動画配信した。 ・パペットアートヴィレッジおたのしみクリスマスinこぐま座(12月21日) その他 動画配信 YouTubeで事業の様子を動画配信した。 ①パペットアートヴィレッジおたのしみクリスマス(12月21日)	・札幌の子ども文化の可能性を内外に発信する機会となり、劇場がこれまで担ってきた役割や取組を全国に示すことができた。 ・文化芸術活動を通して社会課題にアプローチすることは劇場の重要な使命の一つであり、今後も多様な人々が文化芸術を享受し、参加できる機会を継続的に提供していく必要がある。 ・さっぽろ雪まつりシーズンに訪れた国内外の観光客や札幌市民に向けて、雪像づくり体験やスノーキャンドルづくりなどの雪を使った遊びを実施した。こぐま座では人形劇公演のほか、パペットカーでの上演も行い、令和8年度迎えるこぐま座の50周年をPRすることができた。

5. 施設の利用等に関する業務										
(1)貸館業務計画	① 受付カウンター業務 ・施設使用にあたっては、札幌市こども劇場条例及び札幌市こども劇場条例施行規則に基づき、申込受付を行った。施設利用者は、「札幌市こども人形劇場使用承認申請書」に記入の上、提出する。 ・受付時間：午前8時45分～午後5時15分 ・ホール使用にあたっては、3カ月前の1日から受付を行い、電話での仮申込も可とした。 ・各劇団の中島児童会館夜間占用利用については、こぐま座の自主事業『札幌市こども人形劇場こぐま座支援事業』として使用料の一部負担する。利用申込については、中島児童会館と協議の上、申請手続きを定め、申請様式を作成して実施した。 ・利用台帳を作成し、利用の調整を随時行った。 ② 施設の案内及び説明 ・公演時の観客対応、劇団の施設使用時、日常の来館時の問い合わせ、電話対応などにおいて、施設、公演など案内及び説明を行った。 《令和7年度施設見学実績》 5月27日 資生館小学校4年生 73名 6月12日 山鼻小学校3年生 25名 ③ 備付物件の貸出と管理 ・公演のリハーサル、準備、本番時において、劇団への備付物件の貸出を行った。また、使用後の確認及び点検を行った。	・利用申込受付については、条例に基づき、適正に処理を行った。特に問題はなかった。 ・こぐま座支援事業については、事務フローを作成し、適正に処理を行った。 ・施設の歴史と経緯、年間の公演数等について、丁寧な説明を行った。 ・日常的に物品を点検確認し、利用者の使用に支障が生じないようにした。								
(2)使用承認等に関する業務	① こども人形劇場の使用申込の受付及び使用の承認、不承認 ・施設使用承認にあたっては、札幌市こども劇場条例及び札幌市こども劇場条例施行規則に基づく。提出された「札幌市こども人形劇場使用承認申請書」を精査の上、承認する。その際に「札幌市こども人形劇場使用承認書」を発行する。 ・不承認について該当事例なし。 ② 施設使用に当たって、特別の設備を設け、又は特殊な物件を搬入しようとするときの当該行為の承認、不承認 ・該当事例なし。 ③ 使用承認等の条件の変更、施設の使用の停止命令又は使用承認等の取り消し ・該当事例なし。 ④ 利用料金の徴収事務 ・札幌市こども劇場条例及び札幌市こども劇場条例施行規則に基づき、劇場使用料の徴収事務を行う。使用料については、下表のとおり。 ・利用者総数、上演日数及び上演回数については、目標を達成することができた。利用料金については計画時の見込通りとなった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">単 位</th><th>使 用 料</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1回の公演につき</td><td>同一のプログラムによる上演が1回の場合</td><td>入場料等の総額の5%に相当する額</td></tr> <tr> <td>同一のプログラムによる上演が2回以上の場合</td><td>入場料等の総額の10%に相当する額</td></tr> </tbody> </table> ※令和7年度利用料金収入総額…225,845円 ⑤ 利用料金の減額若しくは免除又は還付に関する事務 ・該当事例なし。 ⑥ 入場の制限その他施設の秩序維持に関する事務 ・該当事例なし。	単 位		使 用 料	1回の公演につき	同一のプログラムによる上演が1回の場合	入場料等の総額の5%に相当する額	同一のプログラムによる上演が2回以上の場合	入場料等の総額の10%に相当する額	・施設使用承認については、条例に基づき、適正に処理を行った。 ・劇場使用料の徴収事務については、条例に基づき、適正に処理を行った。
単 位		使 用 料								
1回の公演につき	同一のプログラムによる上演が1回の場合	入場料等の総額の5%に相当する額								
	同一のプログラムによる上演が2回以上の場合	入場料等の総額の10%に相当する額								

6. 管理業務に付随する業務		
(1)広報業務	・よりわかりやすいホームページURL (https://koguyama.jp) にするために独自ドメインを取得している。また、ウェブアクセシビリティを考慮し、誰もが利用しやすいホームページを目指して運営を行った。令和7年度のホームページアクセス数は334,055件、月平均27,838件、一日の平均が915件であった。今後も充実したホームページを目指し集客につなげていきたい。 ・公式SNS (Twitter、Facebook、Instagram、X) や無料通信アプリLINE公式アカウントを活用し公演・講座情報の発信を積極的に行い利用者の利便性向上と集客につなげることができた。アンケート結果でも出ているようにSNSによる公演等の市民の情報取得率は高い。 ・定期的に(年6回)こどもの劇場通信(公演情報、事業案内等)、MA・SO・BO通信(子ども文化の発信)をやまびこ座と共同で発行し、市内公共施設、関係機関、児童会館等、及びやまびこ座近隣小学校5校へ配布した。また、公演ごとに来館者へ配布した。 ・公演情報を各報道機関等に提供する等、宣伝活動に努めた。また、チラシ・ポスターを作成し、市民への配布のほか、地下鉄駅や劇場館内への掲示を行い周知を図った。 ・公益財団法人さつぽろ青少年女性活動協会発行のさつぽろ・こども情報マガジン「あそぼ」ダイジェスト版(市内全小学生配布)に、公演情報を毎月掲載した(年3回各9万部発行)。	・広報業務は、劇場の認知度向上と観客数に直結する重要なものであるとの認識のもと、常に情報発信を行った。令和7年度もSNS等を活用し、公演情報や事業案内の発信を適宜行った。今後は案内だけではなく劇場での成果も発信していけるような体制を整えていく。 ・札幌市内だけではなく、北海道内の幼稚園や保育園等からの団体観劇に係る問い合わせが増えている。今後の施設利用にもつながることから、案内リーフレットを作成して、積極的に劇場や各施設での団体観劇をPRしていきたい。 ・劇場運営において広報活動は切実必要不可欠である。デジタル化やSNSが大いに普及する今、新たな広報戦略を構築する必要がある。
(2)施設ホームページのウェブアクセシビリティの確保	・札幌市公式ホームページウェブアクセシビリティの方針に準じて、アクセシビリティの維持・向上に努め、ホームページの更新を行った。	・ウェブアクセシビリティを考慮し、誰もが利用しやすいホームページを作成した。
(3)引継ぎ業務	・継続し指定管理業務を行っているため、引継業務なし	
7. 札幌市内の企業等の活用について		
(1)市内企業等の活用、福祉施策への配慮等	・第三者に対する業務委託、物品の調達等を行うにあたり、札幌市内の企業等を積極的に活用した。	
8. その他		
(1)自主事業の実施	《物品販売事業》 市民サービスの一環として、マスコット人形や人形劇キット、手づくりおもちゃ、オリジナルグッズ等の販売を各人形劇公演時に実施。集客の一助、リピーターの確保等につなげ、公演の活性化を図った。 実施期間: 令和7年4月1日～令和8年3月31日 販売商品: ①ハンドバペット 金額: 300円～1,200円 ②オリジナルグッズ(こぐまちゃんラバーストラップ、ピンバッジ等) 金額: 50円～500円 【販売実績】 ①ハンドバペット: 販売個数 31個 売上額 24,800円 ②オリジナルグッズ: 販売個数 446個 売上額 110,500円 合計: 販売個数 477個 売上額 135,300円	・市民サービスの一環として物品販売を実施した。来場者に喜ばれる新たな商品開発により、公演後に観劇の記念として購入する来場者が多かった。 今後も、劇場の親しみやすさを高め、リピーターの増加につながるような物品の販売を行う。
(2)改修工事・大規模修繕について	・該当事例なし。	
(3)映画等の撮影の申し出を受けた場合の対応	・該当事例なし。	

2 アンケートのまとめ

1. 実施目的

施設利用者に対してアンケートを実施し、利用者の満足度や市民からの要望、意見を集約していくことで、業務を振り返り、業務の改善に反映させるよう努める。

2. 実施内容及び実施方法

観客用アンケート、利用者(劇団)アンケート、事業別参加者アンケートをそれぞれ作成し、実施。

① 観客用アンケート

各公演時において、来館した観劇者に対しアンケートを配布。公演の周知方法、これまでの来館数等の回答者についての設問や劇場の設備について、職員の対応等の設問、また具体的なお芝居の感想に対し、回答していただいた。記名方式(無記入可)。

② 利用者(劇団)アンケート

劇場を利用する劇団に対し、アンケートを実施。普段、劇団の活動で劇場を利用するに当たり、劇場の使いやすさや職員の対応といったソフト面とハード面の両面について回答していただいた。実際にお芝居を創っていく上での環境、職員の支援体制、劇場の設備について、職員の対応等に対する設問。記名方式(劇団名、氏名 無記入可)。

③ 事業参加者アンケート

事業参加者(受講者)に対し、各事業ごとの終了後にアンケートを実施。事業プログラム内容や講師、担当職員の対応、施設の使いやすさ等について回答していただいた。記名方式(無記入可)。

3. アンケート結果

		観客用 アンケート	利用者(劇団) アンケート	事業参加者アンケート			
				こぐま座こども人形劇団	こぐま座人形劇講座	よみかたりフェスティバル大人向け講演会	文化庁委託事業「ハベットアートヴィレッジ」
①	実施期間	4/1 ～3/31	4/1 ～3/31	6/4～3/20	6/5～10/26	6/21	6/29～12/21
②	アンケート回収枚数(枚)	1,768	23	10	8	33	12
③	職員の対応、説明(点)	4.6	4.9	4.8	4.9	4.9	4.8
④	劇場の設備(点)	4.3	4.9	4.3	4.7	4.1	4.6
⑤	観劇のマナー(点)	4.3					
⑥	施設的环境整備(点)		4.8				
⑦	劇場のサポート(点)		4.6				
⑧	利用申込、手続きの仕方(点)		4.6				
⑨	事業プログラム内容(点)			4.7	5.0	4.9	4.9
⑩	講師について(点)			4.6	5.0	4.8	4.9

		事業参加者アンケート			
		まなび塾	経験者のための人形劇講座	こども文化セミナー(あべ弘士)	計
①	実施期間	7/10～10/30	10/28	2/11	
②	アンケート回収枚数(枚)	7	9	27	106
③	職員の対応、説明(点)	4.7	4.8	4.7	4.8
④	劇場の設備(点)	4.6	4.3	4.1	4.4
⑤	観劇のマナー(点)				
⑥	施設的环境整備(点)				
⑦	劇場のサポート(点)				
⑧	利用申込、手続きの仕方(点)				
⑨	事業プログラム内容(点)	4.4	4.8	4.9	4.8
⑩	講師について(点)	4.4	5.0	5.0	4.8

4. 評価及び考察

①観客用アンケート

回収枚数:1,768枚
・職員の対応について…「案内が親切、丁寧である」「笑顔で対応してくれた」等の意見を多くいただいた。引き続き、来場者に高い評価をいただける接客対応に努めていく。
・設備について…「子どもと並んで観れるのがうれしい」「冬用のコートがけがあればいい」等の意見をいただいた。また、「自動販売機があるといい」「子どもに良いサイズ感が長身の大人には狭く辛い」との意見もあった。
・環境について…「こどもへの配慮が行き届いている」「ブザー音がもう少し小さいと安心」「座席の配置が工夫されていてよかった」「公園が目の前なので子どもと来やすい」等の意見があった。

②利用者(劇団)アンケート

・支援体制について…「必要なサポートが受けて、安心して上演できる」「程よいキャパシティである」など好意的な意見をいただいた。
・施設サービスについて…「必要なものが揃っていて非常に良い」「楽屋もあって搬入口も舞台に近く助かっている」などの意見をいただいた。
・職員について…「明るく笑顔で対応してくれる」「いつも手厚く丁寧に対応していただき、本当に助けていただいている」「皆様親切で、助言をいただけるのがとても嬉しい」等の意見をいただいた。今後も劇団との信頼関係構築に努め、市民参加型の劇場運営を進めていく。

③事業別参加者アンケート

・事業内容について
どの事業に対しても、好意的な意見が数多く、「人形の作り方・操演等が具体的かつ解かりやすく教えていただいた。」「講師の方とお話が出来て嬉しかった」など高評価が得られた。今後も参加者のニーズを取り入れ、より満足を得られるよう事業内容の充実を図る。

5. 全体を通して

HPやSNS、口コミ、公園からの来場者が約7割以上を占め、地域の皆様の日常に溶け込んだ施設として親しまれている。オンライン発信や口コミによる新規観劇者の広がりは来場者の関心度や満足度の表れと受け止め、今後もさらに魅力的な情報発信に努めていく。
また、スタッフの対応や子ども向けサービスに関しては高評価を頂く一方で、客席のゆとりやバリアフリーといった設備面で改善を求めるご意見が多い。これから工夫を凝らし、多様なニーズに耳を傾けた、より快適で満足度の高い劇場環境の実現に目指していく。

3 令和7年度管理業務総括

1. 総合評価	「豊かな子ども文化に彩られた未来創造のまち・さっぽろ」の基本方針のもと、令和7年度は初心者のための人形劇講座をはじめ、経験者を対象とした表現者のためのスキルアップワークショップの実施など、人材育成事業を中心に取り組みを実施した。また、今年度の重点事業である「いい大人形劇フェスタ2025への派遣事業（長野県飯田市で開催）」では障がい児とつくる人形劇「北のおばけ箱1」および伝統人形芝居公演「座・競演」の2つの公演企画を実施した。「座・競演」では国内4座の若手が共演し、刺激を与え合うことで次世代の文化を担う人材の育成を図るとともに交流を深めることができた。2つの公演を通して、長年やまびこ座・こぐま座が取り組んできた人材育成事業やインクルーシブの要素を最大限に活かしたさっぽろの取り組みを全国へ発信することができ、高評価を得る機会となった。 また、令和7年度2つ目の重点事業であるインクルーシブ事業（まぜこぜフェスティバル・手話通訳付き公演等）を、文化庁から受託した「障害者等による文化推進事業」として実施した。障がいのある子どもたちがステージ上で主体的に表現する機会を設け、多くの来場者が作品鑑賞や体験型企画に参加した。障がいの有無、国籍、文化的背景、年齢等を問わず、すべての子どもとその家族が楽しめる構成としたことで、参加者一人ひとりが主役となり、多様な個性が混ざり合う新しい文化体験を創出することができた。そのほか、養護学校や特別支援学級での人形劇鑑賞等の文化体験ワークショップを実施した。また、「舞台手話通訳付き公演」として、人形劇、児童劇、人形浄瑠璃に字幕やムーブアラウンド形式の舞台手話通訳をつけた公演を定期的実施し、健聴者も聴覚障がい者も同じ舞台を共に観劇できる環境を整備した。今後も障がいの有無に関わらず、だれもが楽しめる共生社会の実現に向けた取り組みを推進し、発信していく。 そのほか、さまざまな家庭の事情により劇場に足を運べない子どもたちのために、巡回公演や各種ワークショップを実施し、多くの子どもたちに人形劇等の観劇機会や文化体験機会を提供することができた。また、やまびこ座・こぐま座は「あそび」と「こども文化」の発信だけではなく、「やまびこ座夏まつり」や「かもくま祭」等、地域の関係団体と協働で多角的な事業を展開することで、子どもからおとなまでの幅広い年代の方々がやまびこ座・こぐま座に集い、地域コミュニティ醸成の一翼を担っている。やまびこ座・こぐま座を拠点とし、子どもたちが身近にこども文化に触れることで心豊かに育つことを願い、引き続き取り組みを進めていく。 次年度への懸案事項は、一般公演の観客数の減少である。少子化の影響等が顕著に現れているが、これまでの広報活動だけでは大幅な観客数の増加は見込めないのが現状である。SNS等を利用した広報を含め、さまざまな年代に届く広報活動を模索するとともに観客のニーズ調査を実施し、劇団関係者へ還元していく。あわせて、来場できない子どもたちに対しては、積極的にアウトリーチ活動を行うなど、劇団と一体となり取り組みを進めていく。
2. 基本方針及び来年度以降の重点取組事項	基本方針 『豊かな子ども文化に彩られた未来創造のまち・さっぽろ』 こどもの劇場は、「人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もっとその健全な育成その他の活動に資すること」（札幌市こども劇場条例）を目的として設置された施設である。全国にも数少ない子どものための専門劇場として、「子ども文化」を育むことで生み出される人と人のつながりにより、こころ豊かな未来を描くことができる、地域の文化拠点を目指す。 こどもの劇場において子どもたちが文化芸術に触れることで情操豊かに育つことに加え、それを支える市民劇団を育成する中で醸成される地域コミュニティ創造を目指す事業を積極的に展開する。 市民に寄り添う人材育成を事業の根幹に据え、舞台創作を支える専門性に加え、人と人をつなげ導く能力の向上を目指す。 「ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）」機能を有した事業展開のレベルアップと収益源の多様化について重点的に戦略立てて進める。 ① こぐま座50周年事業 「人形とともに子どもたちの夢を紡いだ半世紀」 全国初の公立専門人形劇場として1976年に開館した札幌市こども人形劇場こぐま座は、令和7年度に開館50周年を迎える。これまで、人形劇を通じて子どもたちへ良質な舞台芸術を提供するとともに、人材育成、地域活性化、国際交流の推進など、地域文化の発展に寄与してきた。 記念事業では、「人形とともに子どもたちの夢を紡いだ半世紀」をテーマに、「World Children's Puppet Camp in SAPPORO」や韓国劇団ArtStageSAN招へい公演（北海道ツアー）等を実施する。人形劇という世界共通の文化芸術を通じ、国や言語、文化、信条の違いを超えた子どもたちの共同制作を行うことで、多様性理解や国際感覚の育成を図るとともに、相互理解を深める機会を創出する。また、各国文化への理解を通して自国文化の再認識を促し、グローバル社会に対応した人材育成につなげる。さらに、国際交流拠点としての札幌の魅力向上や地域活性化、メディア発信による認知拡大を図り、次世代の担い手育成と国際的ネットワークの強化を目指す。 ② 人材育成事業の継続と指導者・職員養成の強化 人材育成事業は劇場運営の根幹であり、最も重要な柱である。一方で、その人材を育成する指導者・講師・職員の養成が急務となっている。若い世代の積極的な参画や挑戦を促進しながら、次世代の担い手育成と、それを支える指導的人材・運営人材の双方の育成を進め、持続可能な事業運営体制の構築を図る。 ③ インクルーシブ事業の更なる展開と発信強化 インクルーシブ事業は、市民ニーズの高い事業であることが明確となっており、今後はより積極的な展開が求められている。こぐま座50周年記念事業を通し全国へ札幌の取組を発信し、広域的な交流や連携につなげるとともに、地域においても理解と共感を広げるため、身近な発信と丁寧な実践の両立を図っていく。 ④ アウトリーチ事業の拡大 バベットカーを活用した事業展開を中心に、児童会館等との内部連携に加え、外部機関や広域的な関係団体との連携を強化し、多様な地域へ文化芸術を届けていく。また、被災地支援など社会的課題への対応も視野に入れ、文化芸術を通じた社会貢献活動の展開を図る。 ⑤ 業務改善（管理）及び財源確保の推進 令和8年度は、業務の整理と課題の可視化を進め、改善の方向性を明確化することで、実効性のある業務改善につなげていく。また、持続可能な劇場運営に向け、多様な財源確保の可能性についても検討を進める。 ⑥ 外部団体とのネットワーク構築 人形劇・児童劇・伝統芸能を中心とした子ども文化・舞台芸術関係団体とのネットワーク形成を推進する。劇場がハブ機能を担うことで、地域・全国をつなぐ連携や新たな事業創出を図るとともに、共催事業の実施や文化芸術関連組織への加入等を通じてネットワークを拡大し、新たな事業展開や協働の受け皿となる体制を構築していく。

札幌市こども人形劇場こぐま座

令和7年度 業務報告書

【事業実績】

1 公演事業

区 分		実施内容	実施日	ステージ数	観客数	備 考
1	一般公演	市内アマチュア人形劇団を中心に毎週末、祝日、学校休業期間(春、夏、冬休み)に人形劇公演を実施した。	通 年	157	5,204	
2	団体観劇	幼稚園・保育園等の園外活動として、団体観劇を実施した。	7/9、8/27、 9/27、10/3、 10/15、11/29	6	267	7/9 1st 12名 8/27 1st 25名 9/27 1st 108名 10/3 1st 69名 10/15 1st 21名 11/29 1st 32名
3	GW特別企画 「あそびの劇場」	市民に楽しんでもらえるイベントとして市内の各劇団、ボランティアの協力のもと開催した。人形劇等のバラエティー公演、パペットカー公演や工作会、あそびのコーナーなどのイベントを展開した。事業の一部収益は「日本ユニマ」への寄付を通じ、災害地域への文化的支援活動へ役立てていただく。	5/3～4	6	265	
4	よみかたりフェスティバル おはなしパレード	札幌市内や道内で活躍する読み語り団体や人形劇団を招き、絵本・紙芝居・人形劇の連続公演を行った。	6/22	2	125	
5	かもくま祭× あそびのフェスティバル	公立として全国初の児童会館に併設された人形劇専門劇場の2施設が併設されている歴史的価値を市民へ伝える機会として様々な遊びのコーナーを展開する事業を地域民生委員児童委員協議会、パークホテル、中島公園管理事務所等と協働で実施した。	7/5～6	4	608	5日200名 6日300名 パペットカー108名
6	札幌国際人形劇 フェスティバル 「あおぞらピクニックシアターin中島公園」	屋外というフィールドで文化芸術を市民の皆様に楽しんでもらい、普段人形劇場に足を運ぶことがない市民の方々にも目につく機会を創作するために実施した。人形劇等への興味関心を引き出し、劇場へ足を運ぶきっかけの提供を行った。7日は雨天のため、会場を一部変更し、屋内で開催した。	9/6～7	2	426	
7	野外劇 「Engacho! Public! Miracle Heaven!」	札幌の舞台で活躍する柴田智之氏ときくぞう氏と長野県の劇団のらぼう主宰の前田斜め氏3名による1人芝居3本立ての野外劇を実施した。道内5箇所で開催を行っており、札幌公演の会場として、こぐま座前の広場で上演を行った。	9/14	1	63	
8	地域の中核劇場・音楽堂 等活性化事業 「舞台手話通訳付き人形劇 公演」	共生社会の実現のため、文化芸術の側面から多様な価値観を認め合うインクルーシブな共生社会を目指し、創造者としてかかわることで育まれる相互理解により、心豊かな社会を構築することを目的に実施した。	9/20～21	3	109	20日 2st 68名 21日 1st 41名
9	インクルーシブ文化祭 「まぜこぜフェスティバル 2025」	障がいの有無、国籍、文化的背景、年齢などを超えて、誰もが人形劇等を通して多様性を自然に体験し笑顔と活気に満ちた心豊かで自分らしくいられるコミュニティを育てる事業の実施により、ソーシャルインクルージョンの理解と進化につなげる機会の創出を目的に実施した。	10/12～13	2	235	12日 118名 13日 117名

区 分		実施内容	実施日	回数等	参加人数	備 考
10	こぐま座人形劇講座発表会	初心者・経験者を対象として行ってきた人形劇講座にて制作した人形劇の発表会を実施することにより人形劇の楽しさを市民に周知し人形劇人拡大を図る機会とした。(4劇団公演)	10/26	1	81	
11	こぐま座秋の特別公演	普段あまり見ることのできない北海道外の専門人形劇団による特別公演を実施することで、こどものための豊かな体験機会を創出する機会とした。今回は奈良県専門劇団の人形劇団ココンによる特別公演を行った。	11/1～3	4	214	1日 1st 24名 2日 2st 112名 3日 1st 78名
12	障害者等による文化芸術活動推進事業(文化庁委託事業) 『文化の扉を開こう!』 パペットアートヴィレッジ	地域の文化拠点としてソーシャルインクルージョンの機能を持ち、障害等の有無にかかわらず、誰もが文化芸術を享受できる未来社会の創造を目指す。参加者は表現活動による新たな体験をとおり、自身の発見と社会とのつながりを広げる機会とした。	12/21	2	113	
13	こぐま座冬の特別公演 ～1人芝居の競演～	これまでやまびこ座・こぐま座で行ってきた人形劇講座経て。活躍しているアマチュア人形劇団を多くの市民に知ってもらうことを目的として実施した。今回は両劇場で活動している1人芝居の連続公演(2日間6劇団)を行った。	1/17～18	2	78	17日 44名 18日 34名
14	中島児童会館・こぐま座 presentsゆきあかりフェスティバル2026	中島公園を訪れる札幌市民や国内外の観光客に向けて中島児童会館とこぐま座の両施設の認知度アップを図り、ミニ雪像づくり体験や雪遊び体験、キャンドルづくり工作やこぐま座ホールでの人形劇とパフォーマンスの公演を行ったほか、パペットカー公演も実施した。	2/7～8	6	309	2/7 165名 2/8 144名
15	こども文化セミナー	旭川市在住の絵本作家 あべ弘士さんを迎え、絵本の読み聞かせと「地球は動物でいっぱい」をテーマに講演会を実施した。	2/11	1	60	
16	こぐま座こども人形劇団発表公演	札幌市内の小学校3～6年生を対象に、人形劇を通して、様々な表現活動を展開していく。子どもたちならではの作品づくりを行った。3月1日は取り組んできた作品を発表した。	3/1	1	80	
17	こぐま座プレ50周年企画 8☆スクランブルシアター	札幌で活動する8つの人形劇団が、今年度制作した新作人形劇を発表した。	3/7～8	2	138	3/7 72名 3/8 66名
合 計				202	8,375	

2 各種講座等の育成事業

区 分		実施内容	実施日	回数等	参加人数	備 考
1	経験者のための人形劇講座	劇団ごとに目標を設定し、講師から指導・アドバイスを受けながら新作の制作、旧作のリニューアルを実施し、劇団のレベルアップ、自主公演等の活動の活性化を目的に実施した。	6/3～3/8	55	337	
2	こぐま座人形劇講座	初心者・経験者を対象にした人形劇講座。人形劇の楽しさを知ってもらうことにより、周知の拡大を図るとともに、人形劇人の育成、グループ活動の推進を行うことで劇場での公演活動の活性化を図ることを送敵として実施した。	6/5～10/26	33	292	
合 計				88	629	

3 こどもの舞台表現活動の推進

区 分		実施内容	実施日	回数等	参加人数	備 考
1	こぐま座こども人形劇団	札幌市内の小学校3～6年生を対象に、人形劇を通して、様々な表現活動を展開していく。こどもたちならではの作品づくりを行った。	6/4～3/20	49	495	
2	パペットユーススクール	中・高校生を対象とした人形劇スクール。中・高校生の受け入れの場として開講し、中・高校生による人形劇団の育成を進めた。	6/3～3/15	34	348	
3	パペットカレッジスクール	大学生等のための人形劇スクール。パペットユーススクール後も継続して活動する人形劇団の育成を目指した。	7/1～3/15	42	198	
合 計				125	1,041	

4 ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)の機能を有した文化芸術事業の拡充

区 分		実施内容	実施日	回数等	参加人数	備 考
1	障害者等による文化芸術活動推進事業(文化庁委託事業) 『文化の扉を開こう!』 パペットアートヴィレッジ	地域の文化拠点としてソーシャルインクルージョンの機能を持ち、障害等の有無にかかわらず、誰もが文化芸術を享受できる未来社会の創造を目指す。参加者は表現活動による新たな体験をとおり、自身の発見と社会とのつながりを広げる機会とした。	6/29～12/21	13	536	公演事業以外の人数
2	インクルーシブ文化祭 「まぜこぜフェスティバル2025」	障がいの有無、国籍、文化的背景、年齢などを超えて、誰もが人形劇等を通して多様性を自然に体験し笑顔と活気に満ちた心豊かで自分らしくいられるコミュニティを育てる事業の実施により、ソーシャルインクルージョンの理解と進化につなげる機会の創出を目的に実施した。	10/12～13	2	724	公演事業以外の人数
合 計				15	1,260	

5 中島児童会館との協働事業

区 分		実施内容	実施日	回数等	参加人数	備 考
1	GW特別企画 「あそびの劇場」	市民に楽しんでもらえるイベントとして市内の各劇団、ボランティアの協力のもと開催した。人形劇等のバラエティー公演、パペットカー公演や工作会、あそびのコーナーなどのイベントを展開した。事業の一部収益は「日本ウニマ」への寄付を通し、災害地域への文化的支援活動へ役立てていただく。	5/3～5	3	1,329	公演事業以外的人数
2	資料室MA・SO・BO 子ども向けワークショップ	絵本・紙芝居作りや自然体験あそび等、子どもを対象としたワークショップを行う。 6月は絵本作家の長野ヒデ子さんを迎えぶらぶら人形作りのワークショップを行った。その他日常活動として自由に取り組めるように工作の作り方を立体的に展示している。	6/22	1	17	
3	資料室MA・SO・BO おはなしの会	「MA・SO・BO」を活用し、こぐま座ボランティアグループ「おはなしの会」が幼児・親子を対象に紙芝居やペープサート、季節に合わせた工作を行った。	4/9～3/11	18	244	
4	こども文化セミナー 大人向け講演会 「子どもの言葉は不思議！ 長野ヒデ子＆麻子の紙芝居のおもしろ話」	絵本作家の長野ヒデ子氏と長野麻子氏を講師に迎え、紙芝居のおもしろさやこどもたちに伝わる表現活動のポイントなどを実践を交えての講演会を行った。	6/21	1	46	
5	よみかたりフェスティバル	札幌市内や道内で活躍する読み語り団体や人形劇団を招き、絵本・紙芝居・人形劇の連続公演等を行った。	6/22	2	161	公演事業以外的人数
6	かもくま祭× あそびのフェスティバル	公立として全国初の児童会館に併設された人形劇専門劇場の2施設が併設されている歴史的価値を市民へ伝える機会として様々な遊びのコーナーを展開する事業を地域民生委員児童委員協議会、パークホテル、中島公園管理事務所等と協働で実施した。	7/5～6	2	692	公演事業以外的人数
7	「こどものまなび塾」(ボランティア養成講座)	こどもに携わる仕事をしている方々や地域ボランティア、これから子どもたちと関わる仕事をしたいと考えている方々に、学びの場や情報交換の場の提供を行った。	7/10～10/26	16	264	
8	「こどものまなび塾」(ボランティア養成講座)特別企画 秋のなかじま わくわくランド	こどものまなび塾受講生が中島公園をフィールドに、これまでの学びを生かしながら企画から運営までを実践するあそびイベントを実施した。	10/26	1	75	
9	こども文化セミナー かとうまふみさんワークショップ 「おりがみで雪の世界を作ろう」	札幌在住の絵本作家加藤真文氏を講師に迎え、読み聞かせと最新作「おりがみのしろちゃん」をモチーフにライブペインティングとおりがみで雪の結晶を作り大きな作品を仕上げる親子ワークショップを実施した。	1/17	1	15	
10	中島児童会館・こぐま座 presentsゆきあかりフェスティバル2026	中島公園を訪れる札幌市民や国内外の観光客に向けて中島児童会館とこぐま座の両施設の認知度アップを図り、ミニ雪像づくり体験や雪遊び体験、キャンドルづくり工作やこぐま座ホールでの人形劇とパフォーマンスの公演を行ったほか、パペットカー公演も実施した。	2/7～8	2	479	公演事業以外的人数
合 計				47	3,322	

6 地域との共生および関係機関との連携

区 分		実施内容	実施日	回数等	参加人数	備 考
1	人形劇指導育成事業 アウトリーチ事業 資生館小学校(4年生)	小学校の授業の一環として、劇場の機能やノウハウを生かしたアウトリーチ事業を行った。地域の中の親しみやすい劇場を目指し、地域貢献を行うと共に、人形劇制作を通して豊かな想像力を養い、子どもたちに表現する楽しさを伝えた。	5/27 7/2,15 9/26 10/9,16,17	7	489	5/27 73名 7/2 67名 7/15 71名 9/26 68名 10/9 68名 10/16 71名 10/17 71名
2	こぐま座秋の特別公演 児童会館公演	普段あまり観ることができない道外の専門人形劇団(人形劇団ココン/奈良県)の公演を実施し劇場に足の運びにくいこどもたちにも観劇の機会を届けた。(元町北ポプラ児童会館・東白石児童会館)	10/30～31	2	176	30日 94名 31日 82名
合 計				9	665	

7 展示室の活用、その他

区 分		実施内容	実施日	回数等	参加人数	備 考
1	人形劇公演観劇 スタンプラリー	観客者の新規開拓とリピーターの増加をねらい、スタンプカードを発行し、観劇ごとにスタンプを押印、回数によって指人形をプレゼントした。人形劇団と協働しながら企画実践を図り、上演活動の活性化につなげる。	通年	96	3,054	
2	資料室MA・SO・BO及び 657美術館展示	資料室を利用してもらうことにより、札幌に中島児童会館とこぐま座という歴史的価値の高い子どもための施設が存在することを市民に広めることを目的に、季節ごとのあそびや工作、展示会なども行った。 【657美術館 主な展示】 ・絵本作家 長野ヒデ子展 6/21～7/21 1,804名 ・夏の工作展示「かざぐるま」 7/25～8/25 1,552名 ・苫小牧市の文化と福祉を考える会 「絵画展示」10/12～11/6 1,341名 ・かとうまふみ絵本原画展 「おりがみのしろちゃん」1/7～27 1,189名	通年	348	21,351	他事業実施等のため MASOBO閉館 17日間
3	指人形ボランティア	やまびこ座と合同で開催しているスタンプラリーの景品である指人形の制作の他、販売用指人形等の制作を行った。	通年	12	99	
合 計				456	24,504	